

九州新幹線と鹿児島再発見



みやざき まさずみ
宮崎 正純氏

Profile

九州旅客鉄道株式会社
鹿児島支社 取締役支社長
1978年に宮崎大学農学部を卒業後、日本国有鉄道入社。1987年4月九州旅客鉄道株式会社入社。鉄道事業本部施設部企画課長、総合企画本部経営企画部担当部長、新幹線計画部長などを経て、2010年6月より現職。1955年生まれ55歳。

九州新幹線(鹿児島ルート)全線開業に向け、残すところ、後2ヶ月余りとなりました。いよいよ

よ本年3月12日に、鹿児島中央〜新大阪間が最速3時間45分、鹿児島中央〜博多間が1時間20分で結ばれます。

九州新幹線(鹿児島ルート)は、整備計画の決定から足掛け40年、建設着工から20年もの歳月を経て開業を迎えることとなります。

平成16年3月、鹿児島においては、鹿児島中央〜新八代間が一部開業し、予想を上回る多くのお客さまにご利用頂いておりませんが、九州新幹線(鹿児島ルート)が全線開業することで、利用者が大幅に増加することは間違いないだけに鹿児島県にとって

これまで以上に期待は膨らむばかりです。

鹿児島は、薩摩といわれていた時代から奄美や琉球、そして遙か中国大陸や西欧とつながる南の玄関口であったという歴史と風土を持ち、「自然」「食」「焼酎」「温泉(スパ)」そして「ショッピング」という5Sが充実しています。

「自然」といえば、世界遺産に登録されている屋久島や奄美群島をはじめ特色ある島々、桜島等の火山、緑あふれる森林。「食」といえば、世界一大きい大根と世界一小さいみかん、黒豚、黒牛、さつま揚げ、軽羹^{かるかん}等特産品を挙げれば限がありません。「焼酎」は、代表銘柄だけでも100種類以上にのぼり、新商品が

続々と登場しています。鹿児島市の「温泉(スパ)」は、源泉が約

270も点在し、その数は県庁所在地の中では日本一です。工芸品では、匠の技が光る薩摩焼きや薩摩切子に代表されるガラス製品、地元産の竹林を利用した竹製品、奄美大島の紬製品など、いたるところに地域特有の文化に根付いた特産品が豊富にあります。特に、鹿児島の味を生かした食品といえば、最近では

黒豚、黒牛、黒酢、黒糖、黒糖焼酎など「黒」が頭に浮かぶようになりました。中でも、ここ数年、全国の食通の間で美味しいと人気を集めているのが六白と呼ばれる「かごしま黒豚」です。

九州新幹線の部分開業で仕掛けた「黒豚横丁」のネーミングで

大きな効果があったように、更なる時間短縮効果により、より身近になる鹿児島にとっては部分開業以来の売り出しチャンスであることに間違いありません。

九州新幹線(鹿児島ルート)の全線開業がひとつのツールとなり、地元にはかないもの、地元でしか食べられないものを求めて人々はやって来ます。鹿児島を訪れた人々の評価は口コミで伝わり、リピーターとなるのです。地域の特産品の魅力についてどのように仕掛けていくのか、すべてのものが大きな飛躍につながる可能性を秘めていると思います。